

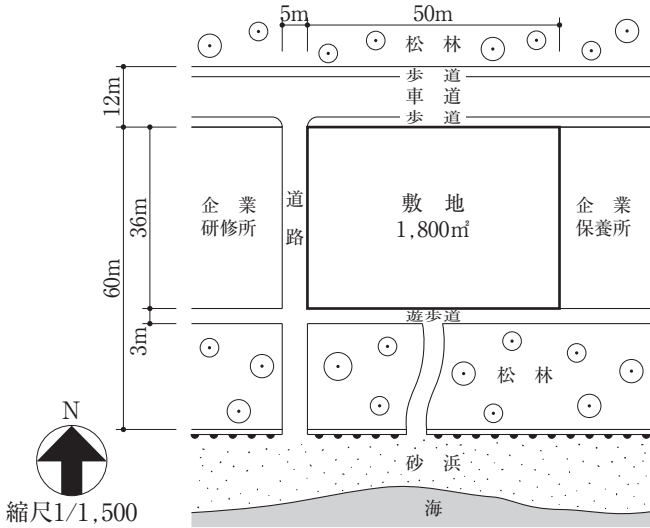
設 計 課 題 大学のセミナーハウス

I. 設 計 条 件

この課題は、海岸線の広がる景勝地において、ある芸術大学の宿泊部門を有するセミナーハウスを計画するものである。
本施設は、セミナーハウスの機能に加えて、一般市民に対してもロビー・多目的ルームを開放しており、彫刻や溶接等を使用して芸術作品を制作でき、地域住民の学習や交流の場となるように計画する。

1. 敷 地 及 び 周 辺 条 件

- (1) 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- (2) 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- (3) 敷地は、都市計画区域及び準都市計画区域以外の区域であるが、景観保全のため建築物に関して次の制限がある。
 - ① 北側道路の境界線から外壁の後退距離は、5m以上とする。
 - ② 主要な屋根は、勾配屋根とする。
 - ③ 建築物の高さの限度を10mとする。
- (4) 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- (5) 地盤は良好であり、杭打ちの必要はない。
- (6) 気候は温暖で、積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



2. 建 築 物

- (1) 構造、階数等
構造種別は自由とし、地上2階建ての1棟の建築物とする。
- (2) 床面積の合計
床面積の合計は、1,400㎡以上、1,700㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しないものとする。
- (3) 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室 名	特 記 事 項	床面積
・ エントランスを北側道路側に設け、遊歩道からの動線に配慮する。 ・ 多目的ルームにまとまったスペースで40㎡以上の吹抜けを設け、5 m以上の背の高い作品の制作ができるように計画する。			
宿 泊 部 門	宿 泊 室 A	・ 洋室(6人部屋)を3室設ける。 ・ 間口6 m以上とする。	1室当たり 約 40㎡
	宿 泊 室 B	・ 洋室(4人部屋)を3室設ける。 ・ 間口6 m以上とする。	1室当たり 約 30㎡
	和室(1)及び(2)	・ 宿泊室として使用し、それぞれ和室14畳以上とする。	適 宜
	教 員 宿 泊 室 (1)及び(2)	・ 洋室の1人部屋とする。 ・ 車いす使用者用宿泊室を兼ねる。 ・ バリアフリーに配慮したバス・トイレ・洗面ユニット付きとする。	1室当たり 約 20㎡
	リネン室		適 宜
	洗濯・乾燥室		
	洗面所	・ 男性用、女性用として、それぞれ各1室設ける。	
	談話コーナー	・ 多目的ルームの吹抜けに面し、背の高い作品を眺めることができるようにする。 ・ 自動販売機を設置する。	約 30㎡
	学習コーナー		適 宜
セ ミ ナ ー 部 門	セミナー室(大)	・ 30人程度が利用できるようにする。 ・ 可動間仕切りにより2室(約40㎡ / 1室)に分割できるようにする。	適 宜
	セミナー室(小)	・ 10人程度が利用できるようにする。	100㎡程度
	多目的ルーム	・ 彫刻や溶接等の芸術作品の制作を行うことができる。 ・ 床の一部分の約40㎡は、高さ5 m以上の背の高い芸術品の制作を行うことができる空間とする。 ・ 準備室を設ける。 ・ 屋外創作スペースと直接行き来できるようにする。	
共用・管理部門	エントランスホール	・ 風除室を設ける。 ・ 下足箱を設ける。	適 宜
	ロビー	・ エントランスホールに面して設ける。 ・ 談話コーナーを設ける。 ・ コインロッカーを設ける。	
	食 堂	・ 海を眺めることができるようにする。 ・ テーブル、いす等を設ける。	約 80㎡
	厨 房		適 宜
	浴 室	・ 大小2室を設ける。 ・ 各浴室に便所、脱衣室を設ける。	約 70㎡
	情報検索コーナー	・ 複写機を設置する。	適 宜
	事 務 室	・ 事務員は通いとし、宿泊はしない。	約 30㎡
	更衣・休憩室	・ 男性用、女性用として、それぞれ各1室設ける。	適 宜
	設備スペース	・ 採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水、電気、消火等)、屋外機器置場等を計画する。 ・ 設置階は、自由とする。	
・ 便所及び倉庫については、適切に計画する。 ・ その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。			

3. そ の 他 の 施 設 等

- (1) 屋外創作スペースを次のとおり計画する。
 - ① 地上に設けるものとし、多目的ルームに面し、海を望む位置に計画する。
 - ② まとまったスペース(直径7m以上の円が1つ入るスペース)で100㎡以上(ピロティ、上部に屋根等がある部分を含めてもよい。)とする。
- (2) 食堂の屋外に50㎡以上のバーベキューテラスを設ける。
- (3) 駐車場は、地上に平面駐車とし、施設利用者の送迎用(マイクロバス、1台当たり3.5m×7.5m)として1台分、車いす使用者用として1台分、サービス用として1台分を設ける。なお、施設利用者用及び職員用の駐車場は、敷地外に別途計画されているものとする。
- (4) 駐輪場は、施設利用者用として20台分を設ける。
- (5) 送迎用のマイクロバス等が利用する車寄せを設ける。
- (6) (1)～(5)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

- (1) 建築計画については、次の点に留意して計画する。
 - ① 建築物はバリアフリー、セキュリティ等に配慮する。
 - ② 宿泊部門、セミナー部門及び共用・管理部門を適切にゾーニングし、明快な動線計画とするとともに、避難等に配慮する。
 - ③ 敷地の周辺環境に配慮する。
- (2) 構造計画については、次の点に留意して計画する。
 - ① 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
 - ② 構造種別、架構形式及びスパン割りを適切に計画する。
 - ③ 部材の断面寸法を適切に計画する。
 - ④ 勾配屋根は、1/10～1/30以内で計画する。
- (3) 設備計画については、次の点に留意して計画する。
 - ① 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を適切に設け、環境負荷低減に配慮する。
 - ② エレベーターを適切に設ける。
 - ③ 自然採光を積極的に取り入れる計画とするとともに、日射の遮蔽にも配慮する。

II. 要 求 図 書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要 求 図 面(答案用紙Ⅰに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。

図 面 及 び 縮 尺	特 記 事 項
(1) 1 階 平 面 図 兼 配 置 図 1/200	① 1階平面図兼配置図及び2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等 ハ. 要求室の床面積 ニ. 採用した構造種別、架構形式及びスパン割りに応じて必要となる構造要素(必要により、凡例の空欄に名称・記号を記入し、図示する。) ホ. 設備シャフト[パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)]の位置 ヘ. 設備計画に応じた設備スペース(ただし、屋上に設けた場合は断面図に図示する。) ト. 断面図の切断位置 ② 宿泊室A、B及び教員宿泊室については、次のものを図示又は記入する。 イ. 各宿泊室のうち代表的な1室の室内プラン ロ. 各宿泊室の出入口、パイプスペース ハ. 各宿泊室の表示(宿泊室AはA 1～A 3、宿泊室BはB 1～B 3) ③ 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 屋外創作スペース及び屋外バーベキューテラス(面積を記入する。) ハ. 駐車場及び駐輪場(台数及び出入口を明示する。) ニ. 通路、植栽、ごみ置場等 ④ 2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から避難階段の一に至る歩行距離及び経路 ロ. 1階の屋根、ひさし等となる部分
(3) 断 面 図 1/200	① 切断位置は、多目的ルームを含み、建築物の全体の立体構成及び屋根の形状がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③ 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室名を記入する。 ④ 基礎、梁及びスラブの断面を図示する。
(4) 2 階 梁 伏 図 1/200	① 2階からの見下げ図とし、主要な柱、大梁、小梁及びスラブは構造部材表の符号を明示する。 ② 構造部材表に主要な柱、大梁、小梁及びスラブの断面寸法を記入し、主要な部材が複数となる場合は空欄に符号・部材・断面寸法を追加記入する。

2. 面 積 表(答案用紙Ⅰに記入)

地上1、2階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱに記入)

- (1) 建築計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - ① セミナー室及び多目的ルームの計画について、その位置とした理由及び動線計画において工夫したこと
 - ② バリアフリーについて、工夫したこと
 - ③ セキュリティについて、工夫したこと
- (2) 構造計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - ① 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割りとこれらを採用した理由
 - ② 勾配屋根の構造計画について、工夫したこと
- (3) 設備計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - ① 多目的ルームにおける冬期の空調設備計画において、快適な温熱環境を提供する観点から注意すべき点及びその対応策(空調の吹出口の位置・形式等)
 - ② 自然採光及び日射遮蔽について、工夫したこと
 - ③ 空調機械室や室外機等の位置と換気について、工夫したこと